

欧州債務問題の解決策への期待感が投資家のリスク回避姿勢を和らげる

2011年11月29日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

欧州債務問題進展期待や米年末商戦好調を受けて欧米株は軒並み大幅続伸

欧州株式市場は銀行や保険などの金融株が牽引し、大幅続伸となりました。今晚のユーロ圏財務相会合で議論されることになっているE F S F機能拡充について、E F S Fはソブリン債に最大30%の保証を付与する可能性があると伝えられました。これを受けて、市場ではE U首脳会議を来週に控えて域内当局者が欧州債務問題解決へ新たな対策を打ち出すとの期待感が広がり、相場を押し上げました。ベルギーでは主要政党が、財政赤字削減を盛り込んだ2012年予算案で合意したことも好感されました。また、注目された各国国債入札も概ね順調でした。イタリアのインフレ連動債(23年9月償還)入札は平均落札利回りが7.3%と7%を超えましたが、調達額は5.67億ユーロと最低調達目標額を上回りました。応札倍率は2.16倍。ベルギー国債入札も10年物の平均利回りは5.659%と先月入札時(4.372%)と比べて上昇しましたが、この10年物を含めて4種類の国債入札の実施により合計20億ユーロ超の調達に成功し、市場では良好な結果と受け止められました。今晚は最大80億ユーロのイタリア国債入札が予定されています。

米国株式市場も欧州株高や年末商戦への期待等から大幅反発となりました。売られ過ぎの反動もあり、買い戻し中心の上昇でしたが、景気敏感株の一角には打診買いもあったようでした。業種別では、米年末商戦の好スタートを受けて、高級ブランドを扱う銘柄やオンライン販売を手がけるネット小売の株価が急伸しました。一方、10月の新築一戸建て住宅販売件数は30.7万戸と予想(31.5万件)を下回り、9月の数値も31.3→30.3万件へ下方修正されるなど冴えない結果となりましたが、これを嫌気する動きは限定的でした。

欧州債務問題の解決策への期待感からユーロが一本調子で上昇した流れに合わせ、日本株も高値引け

日本株は堅調に寄り付きました。値上がり銘柄数は75%程度と幅広い銘柄が上昇し、特に証券、鉄鋼、電機、自動車などの景気敏感株中心に買い戻しが優勢となりました。その後、フランスの格付け見直し観測等からユーロが弱含む場面がありましたが、欧州当局による債務問題解決策への期待感の方が大きく、ユーロドルはまもなく反転し、下げ幅を帳消しにしました。この間、日本株は堅調地合いを維持しており、買い戻し意欲の強さが感じられました。後場に入ると、欧州債務問題の解決策への思惑等からユーロは騰勢を強め、一本調子で上げていきました。日本株もユーロ上昇に歩調を合わせるように、先物主導で上げ幅を広げていきました。けん引役は電機や自動車などの輸出関連株で、対主要通貨で円安方向に振れたことも追い風となりました。結局、日経平均株価は後場だけで+100円以上上昇し、前日比+190円高の8,477円と高値引けとなりました。値上がり銘柄数は全体の9割近くに達し、海運や鉄鋼は+4.0%を超える大幅高でした。しかし、東証一部売買代金は9,408億円と11営業日連続で1兆円を割り込み、前日同様、買い戻し主体の上昇でした。

日本時間早朝、フィッチは米国の長期信用格付けをAAAに据え置く一方、見通しは「安定的」から「弱含み」に変更しました。先日の超党派委員会で財政再建策が合意に達しなかったことが見直し変更が悪影響を与えました。欧州も債務問題解決策の調整が難航する中、スペインやイタリア等の国債の買い入れを継続して行なっているECB頼みの状況に変わりはありません。本日の国内市場は、こうした不安定な状況下、欧州債務問題の解決策への期待感が先行しました。そのため、今晚のE U財務相会合等で進展が見られなか

った場合には、失望感につながりやすく、本日の上昇分を帳消しにする可能性も否定できません。一方、短期的な上値メドは8,500円程度と考えており、8,500円台を回復しても欧州での救済案がまとまらない限り、持続的な買いは期待しづらく、上値は重くなるものと予想されます。